

1月 かなりやぐみだより

令和5年1月25日(水)

津田このみ学園

子どもたちの元気な声や挨拶と共に、新しい年がスタートしました。寒さが厳しさを増す中、子どもたちはすべり台についた霜や吐く息の白さに気づき、冬の自然のおもしろさを感じながら元気いっぱいに遊んでいます。



お正月遊び

新年を迎え、かるたやすごろくをみんなで楽しんだり、けん玉やこまを練習したりと、お正月遊びで盛り上がっています。中でもかるたが特に人気で、ひらがなの読み書きができるようになってきた年長が進んで読み手になって遊んでいます。あお組の子どもの中でも、年長の姿に憧れて読み手に挑戦したり、「手はおひざ、お手つきは1回休みやで！」とルールを守ってみんなが楽しく遊べるように声を掛け合ったりする姿が見られます。あか組の子どもたちも絵札を探して取ったり、「この字、ぼくの名前とおんなじ！」と知っているひらがなを見つけたりし、文字に興味を持つきっかけにもなっています。



一休さん

かなりや組は『一休さん』のお話で劇遊びを楽しんでいます。保育教諭が大きな段ボールや絵の具などを持っていると「次は何つくるん?」「どくのかめで使うやつや!」「私も色塗りする!」と小道具作りにも熱が入り、どんどん一休さんのお話が再現されていきます。みんなで力を合わせて作った小道具を遊びに取り入れることで、より一層生き生きとした表情や表現が見られるようになっていきます。



お手紙ですよ～

年始、登園してきた子どもたちから「年賀状届いたで～!」という声が聞こえてきました。クラスにも郵便ポストやハガキを置くと、さっそく「〇〇ちゃんと〇〇くんを書く!」「絵はどっちに書いたらいいん?」と友達に手紙を書く子どもがたくさんいました。郵便屋さんになった子どもはポストを覗き、宛名を見てそれぞれのもとへ届けます。郵便屋さんから手紙を受け取った子どもは、大事そうに手に持っていたり、折れないように丁寧に連絡袋にしまったりしており、嬉しい気持ちが伝わってきます。次は誰にお手紙を書こうかな?

